

ン遺伝子の異常でも本症が発症する。

病理所見

真皮下層～皮下組織に境界鮮明な不規則形の腫瘍塊を認める。明らかな被膜をもたないが線維性結合組織で包囲される(図21.9)。腫瘍細胞は好塩基性細胞(basophilic cell:毛母細胞由来)および陰影細胞(shadow cell:核が消失し好酸性に染色され、毛皮質に相当する)から構成される。石灰化や異物肉芽腫を伴う。

治療

外科的に摘出する。小児例では自然消退することもある。

6. 外毛根鞘腫 trichilemmoma

顔面に好発する、直径3～8mm くらいの正常皮膚色から淡褐色の疣贅状の丘疹。多くは単発性であるが、多発する場合はCowden 症候群(MEMO)の可能性を考慮する。病理組織学的には円柱状細胞が柵状に配列し、外毛根鞘細胞に類似した透明細胞が集団で存在する。本症の悪性型として外毛根鞘癌(trichilemmal carcinoma)がある。

7. 増殖性外毛根鞘性嚢腫 proliferating trichilemmal cyst

被髪部位に好発する、1～10cm 大の皮下結節ないしは腫瘤。臨床的に類表皮嚢腫や外毛根鞘嚢腫(p.418)と類似するが、表面にびらんや潰瘍を形成することがある。病理所見で外毛根鞘性角化(trichilemmal keratinization)を示すが、細胞成分の増殖もみられ、毛包峽部由来と考えられている。病理組織学的に異型性を伴う悪性増殖性外毛根鞘性嚢腫(malignant proliferating trichilemmal cyst)との鑑別を要する。

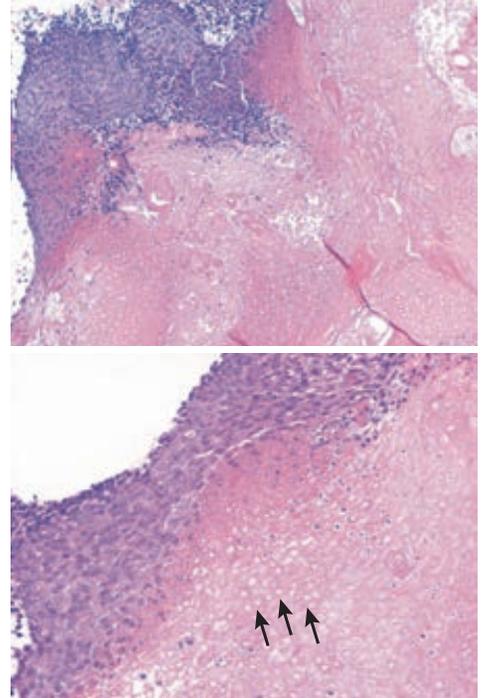


図 21.9 毛母腫の病理組織像
矢印は shadow cell.

カウデン
Cowden 症候群
(Cowden syndrome, multiple hamartoma syndrome)

MEMO

C. 脂腺系腫瘍 sebaceous tumors

1. 脂腺増殖症 sebaceous hyperplasia

同義語：老人性脂腺増殖症 (senile sebaceous hyperplasia)

成熟した脂腺が増殖して隆起したもので、高齢者の顔面(前額、頬、鼻)に好発する。直径3～8mmの黄白色の丘疹ない